

18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」

18:22 イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」

18:23 このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたと思った。

18:24 清算が始まると、まず一万タラントの借りのあるしもべが、王のところに連れて来られた。

18:25 しかし、彼は返済することができなかったので、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。

18:26 それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします。』と言った。

18:27 しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。

18:28 ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲間、彼から百デナリの借りのある者に出会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返せ。』と言った。

18:29 彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待ってくれ。そうしたら返すから。』と言って頼んだ。

18:30 しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。

18:31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話した。



18:32 そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。』

18:33 私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』

18:34 こうして、主人は怒って、借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。

18:35 あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。」

人はときどき、言葉によって信仰深さを表したり、また信仰深さをほめたりすることがあります。ペテロは質問しておきながら、自分で答えているところを見ると、この「七度まで」という信仰深さを表そうとしていたようです。

二回までとか、三回までなどと言っていた他の弟子たちは、ペテロの答えの信仰深さをほめたかもしれません。しかしイエス様は、完全数の七に対してさらに七倍してそれを10倍するという、驚く答えをなさいました。これは永遠に赦せということです。

その根拠は私たちが神様から赦されているからです。その負債は絶対に返せないものであったからです。ならば他の人の負債が、また悪がどんなに大きくても、赦さないで良いはずはないということですから。

赦された自分であることを、もう一度思い起こしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

